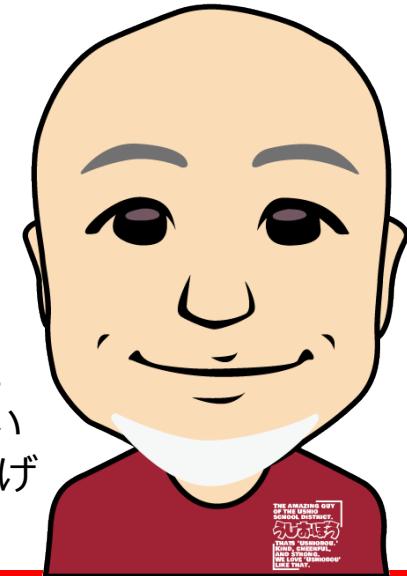


令和7年度 地域運営組織全国セミナー

伊佐市牛尾校区コミュニティ協議会
地域コーディネーター
西 和博

平成25年に協議会へ入局。現在13年目の60歳。
入局当時、設立6年目を迎えていた協議会において、既存事業の見直しおよび新規事業の立ち上げに携わり、現在に至る。



牛尾校区



人口 (R7年6月末現在)

世帯数: 557戸 (うち未加入182戸)
人口: 934人 (うち未加入261人)
(男: 420人/女: 362人)
65歳以上の高齢者: 447人 (48%)

国指定重要文化財

郡山八幡神社



西南戦争激戦地

高熊山



高熊山頂上より伊佐市街地を望む

弾痕痕



塹壕痕

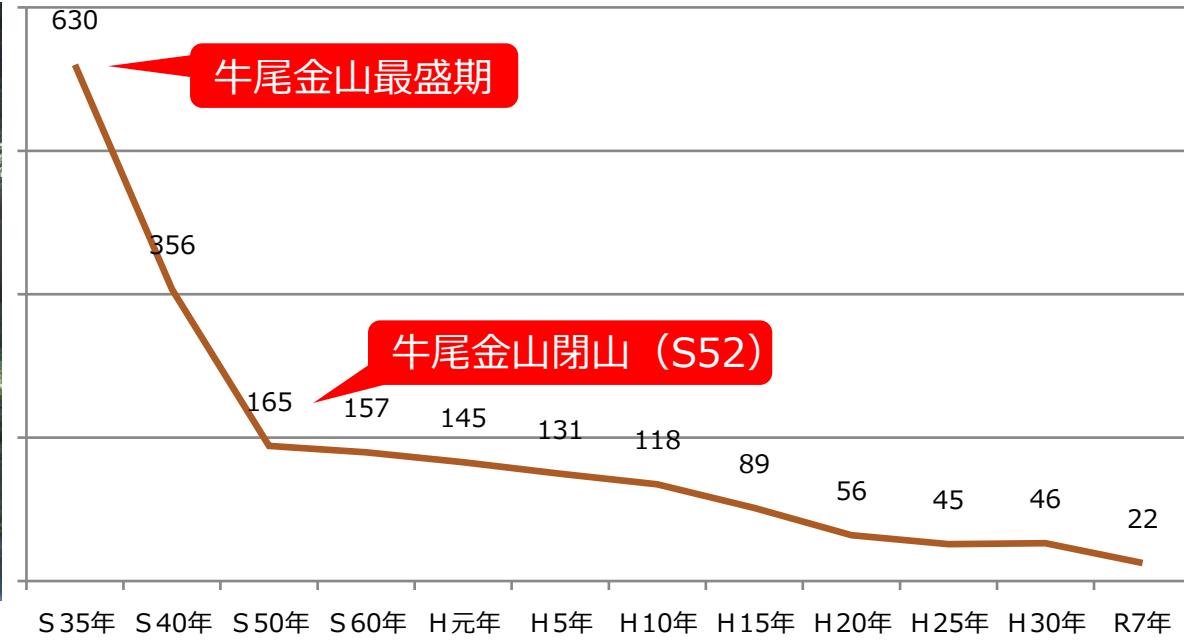
牛尾小学校

創立142年

花と緑に囲まれた小学校



学校裏門「やる気坂」





伊佐市におけるコミュニティ協議会の歴史

- 昭和61年： 大口地区公民館活動推進委員会設立
- 平成17年： 大口市がコミュニティ協議会の方針案を示す
- 平成18年7月： 月一回のペースで設立準備委員会を開催
- 平成19年4月： 大口市で11校区コミュニティ協議会設立
- 平成20年11月： 大口市・菱刈町が合併し「伊佐市」に
- 平成23年4月： 菱刈地区の5校区コミュニティ協議会設立
- 平成24年4月： 小学校閉校により2校区コミュニティ協議会が合併

現在15校区コミュニティ協議会が活動中



牛尾校区コミュニティ協議会について

平成18年3月：21年間続いた「牛尾校区公民館活動推進委員会」解散

平成19年4月：牛尾校区コミュニティ協議会設立

平成24年1月～6月：校区振興計画書策定のためのワークショップ全4回開催

平成25年7月：牛尾っ子見守り隊発足

平成25年10月：牛尾校区安心・安全マップ作成・配布

平成25年11月：牛尾校区コミュニティキャラクター「うしおぼう」誕生

平成25年12月：伊佐警察署署長より地域安全感謝状授与

平成26年4月：大口温泉高熊荘運営管理業務委託開始

平成26年7月：たかくまライダーズ野営場開場

平成28年2月：平成27年度鹿児島県共生・協働型地域コミュニティづくり
推進優良団体 地域コミュニティ部門 会長賞受賞

平成28年10月：全国地域安全運動鹿児島県団体の部表彰

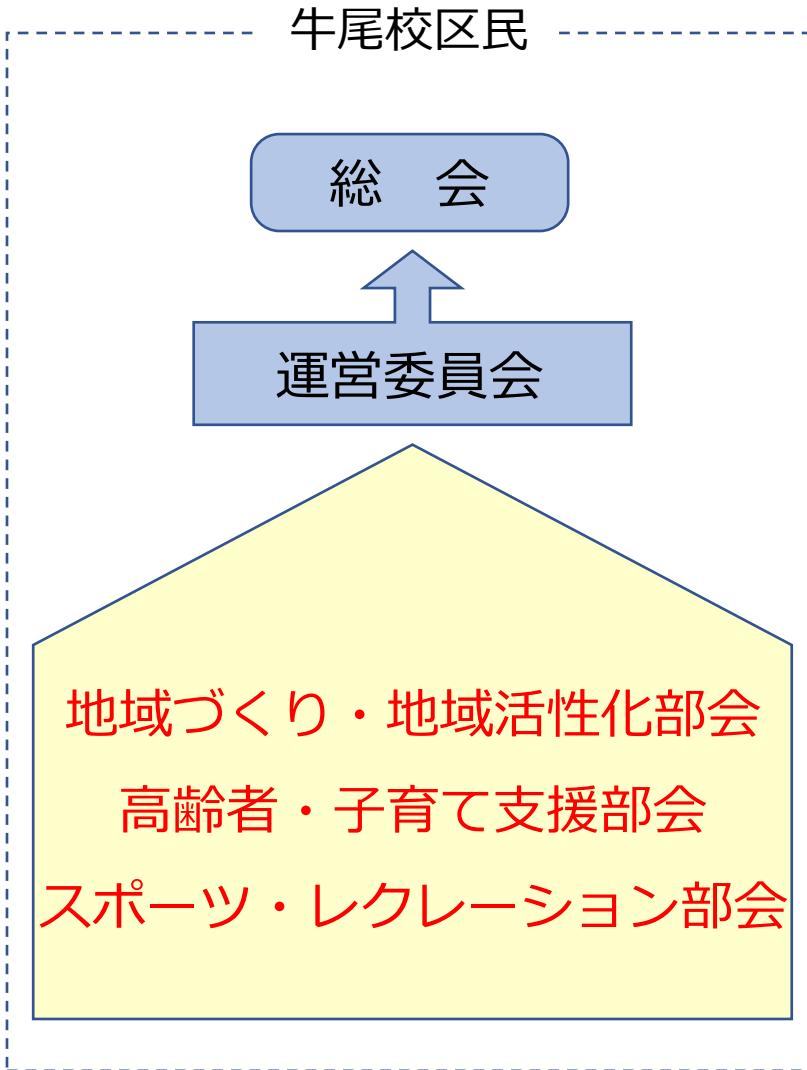
平成30年11月：九州地区公民館研究大会鹿児島県代表事例発表

令和3年2月：地域学校協働活動推進に係る文部科学大臣表彰

令和4年4月：校区の魅力と各自治会組織を掲載した

「牛尾校区まるわかりBOOK」を発行

コミュニティ組織



■総会

毎年4月末に開催：自治会長をはじめとする代表者で組織する各部会員。総勢約60名参加。

■運営委員会

各部会より選出された9名+三役の12名で構成。重要な施策等を審議する。

■地域づくり・地域活性化部会

夏祭り等の地域一帯となって行う活動をまとめる部会。委員数16名。

■高齢者・子育て支援部会

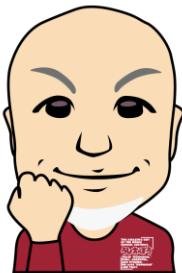
青少年育成活動をまとめる部会。委員数12名

■スポーツ・レクレーション部会

運動会等の体育行事をまとめる部会。委員数14名。

コミュニティキャラクター

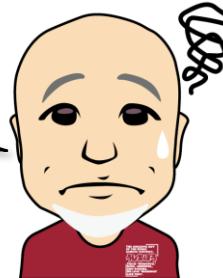
うしおぼう



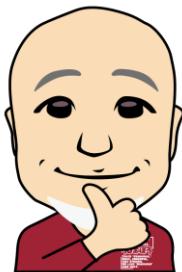
地域のシンボルとなる存在を
創出したい！

地域住民の皆様が元気になれる取組を模索する中で、平成25年当時注目されていた「ゆるキャラ」に着目し、導入に向けた取組を開始。

とは言え、
理解が得られるか懸念された。



募集を開始したものの応募は数点にとどまった。しかし、校区のことは校区の皆様に考えていただきたいとの思いから、締切を延長し対応。



応募が集まり、最終的に作品が決定。

最終的に26点も集まり、校区文化祭で投票を実施し、当時小学校2年生の児童による作品が最優秀作に決定して、名前も「うしおぼう」となる。

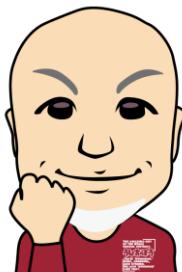
以降、各種印刷物はもとより、Tシャツや缶バッジ等のグッズ展開も行い、協議会の収益向上に役立っている。

着ぐるみ制作も企画したが、予算・人員の関係で断念。しかし、令和3年にFRP製の実物大「うしおぼう」を制作し、コミュニティキャラクターとしての地位を確立し、現在は地域の見守り役を担っている。



デザイナーさんと発案者

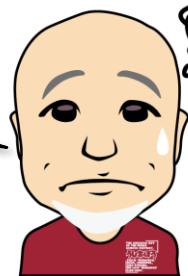
高熊山公園再生プロジェクト



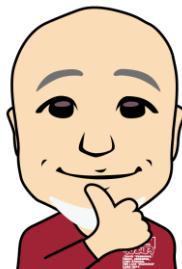
荒れ放題の「地域の宝”高熊山”」
をどうにかしたい！

校区の中心に位置する、西南戦争激戦の地「高熊山」。山頂には伊佐市を一望できる公園があるが、木が生い茂り眺望もほとんど無くうっそうとしていた。

どうやつたら整備できる？



大木もあり、コミュニティだけでの整備は難しく、伊佐市へ伐採・整備要望を提出。しかし公園と駐車場は担当課が違い、要望は困難を極めたが根気強く要望を行う。



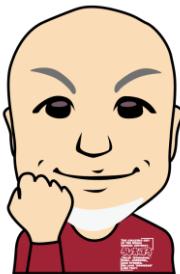
公助・共助のコラボ成功！

要望が採択され大木伐採と西南戦争の歴史を書いた大形看板も新しく制作していただいた（公助）。その後は年4回、高熊山緑の少年団と定期的に山頂公園の草刈等を行っている（共助）。

実は、伐採してもらったもののまだ眺望が良くなく、コミュニティで伐採しようかと話を進めていたところに、台風15号（H27.5）による倒木で市も伐採せざるを得なくなり、大幅に眺望が良くなつた。今では、車で行けて伊佐市を一望できる眺望スポットとなつていて。



コミュニティビジネス

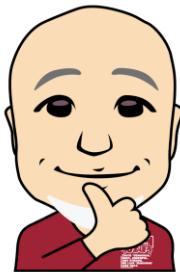


管理委託された施設で儲けたい！

平成26年より「大口温泉高熊荘」の管理委託を始めた。コミュニティは市の補助金で運営しているが、この施設を使った「儲ける」事で次のステップへ進めないかを模索。

何を使って「儲け」を出そうか？

施設内の物品販売。地元産野菜から始まり、アイスクリームや牛乳販売。敷地内空き地を利用したバイク専門キャンプ場の開場。しかし成果が見込めるかは不透明。



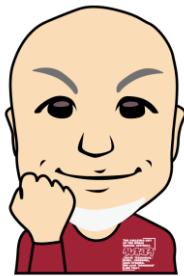
野菜販売もキャンプ場も大盛況！

野菜販売は好評で、併せて温泉利用者も増えてきた。キャンプ場は知名度もなく。3年ほどは低迷したが、現在では「ライダーの聖地」として全国から多くの来場者が来るようになった。

年間50万円以上の利益を上げており、補助金とあわせて、さまざまなコミュニティ行事の実施に役立てている。特にキャンプ場については、今後の施設拡充を予定しており、近年は海外からの利用者も増えていることから、インバウンドを含む交流人口の増加を図り、伊佐市の活性化につなげていきたいと考えている。

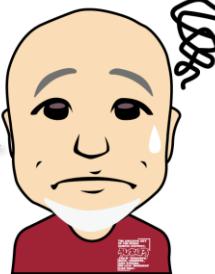


地域の安心・安全のために



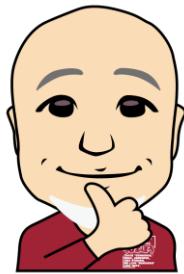
子どもたちを地域で守ろう！

平成25年、牛尾小学校児童への声かけ事案が発生。それまで活動していた「青パト隊」だけでは子どもたちを守ることは限界がある。地元でできる新しい見守りの形を検討。



どんな人たちにお願いしようか？

青少年健全育成と地域介護予防の両立を目的とし、「歩いて見守る」事業の立ち上げを検討。老人クラブに協力を呼びかけたが、賛同が得られるかは不透明。



子どもも保護者も安心できる学校へ

「牛尾っ子見守り隊」の発足時には、多くの高齢者が参加した。発足から11年が経過した現在でも、登校時間には子どもたちに寄り添いながら見守る地域の高齢者の姿が見られる。

令和3年には、これまでの永年にわたる功績が認められ、文部科学大臣より「地域学校協働活動表彰」を受賞することができた。児童数は年々減少しており、現在では見守り隊の方が児童数を上回るという状況にあるが、地域による見守り活動は、子どもたちや保護者に安心感を与え、安心して通える学校づくりに貢献していると考えている。



ご清聴ありがとうございました



高熊山より霧島を眺む